

# スポーツ推進審議会委員やスポーツ関係団体等の主な意見(1/2)

## ○ 子どものスポーツ機会の充実について

### ◆ 幼児期からの取組

- ・ 幼児期では遊びの中から基礎体力が養われる。
- ・ 子どもの時に体を動かすことの楽しさを体験させないと、大人になってからは難しい。
- ・ 体力低下が顕著。運動をする、しないの二極化も顕著。
- ・ 群れて遊ぶ機会を増やすべき。
- ・ 園児の運動意欲を高める工夫が必要。
- ・ きっかけとして、学校体育や幼児の運動あそびを中心にアプローチしてはどうか。
- ・ イベント後にスポーツをする機会・場を提供する方法もある。
- ・ 幼稚園では、食育と併せた体力向上がよく話題にあがる。

### ◆ 学校の体育に関する活動との関連

- ・ 今の子どもは親が危険なことをさせないので、けがをする機会がない。
- ・ スポーツのやり過ぎによるけがを防止することが必要。
- ・ 体力向上に即効性のあるものは少なく、継続した体力向上の取組が必要。
- ・ 学校部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が重要。
- ・ 過疎地に限らず、運動クラブ員数の減少が進行。
- ・ 子どもの時代に様々な種目を体験させることが重要。

### ◆ 地域における取組との関連

- ・ 奈良県の特徴である自然の中で体を動かすことにより、子どもたちが運動を好きになることが重要。
- ・ 広場など、子どもたちが自由に遊べる環境、安全な場所・施設が必要。
- ・ 家から近い場所で、子どものあそび環境を整備することが重要。
- ・ フィールドアスレチックを市街地につくってはどうか。

## ○ 成人の運動・スポーツの推進について

- ・ 高校部活動の選手が卒業後スポーツを続けられるような環境が必要。
- ・ 日常生活で身体運動を取り入れ、NEAT(Non Exercise Activity Thermogenesis)を増やす。
- ・ 生涯にわたり健康を保持増進する環境づくりが必要。
- ・ 病気になるための運動が大切。

## ○ 高齢者の運動・スポーツの推進について

- ・ 「高齢者の生きがいづくりの推進」の中の一つとして「スポーツ」がある。
- ・ 地域の中での高齢者の居場所づくりが必要。
- ・ 地域の見守り活動や交流などを通じ、お年寄りの運動機会が生まれる。

## ○ 障害者の運動・スポーツの推進について

- ・ 障害の有無にかかわらず、住み慣れた町でスポーツをしたい時にできることが基本。
- ・ 20年前から五條の吉野川で障害者カヌーを日本で始めてスタートさせた。マイナーなスポーツであるが、注視すべき。
- ・ 障害者の利用を想定した運動・スポーツ機会の充実が必要。

## ○ 奈良の自然、地勢、景観等を活用について

- ・ 平野部は観光とサイクリングの組み合わせ、南部地域はスポーツとしてのサイクリングを推進。

## ○ 総合型地域スポーツクラブについて

- ・ スポーツの振興にはハード、ソフト、ヒューマンが必要で、その足かかりとして総合型地域スポーツクラブは効果的。
- ・ 学校施設を上手く活用すればクラブの活動拠点となる。
- ・ クラブは高齢者にとっても、地域のコミュニティの活性化につながる。(居場所づくり)
- ・ 総合型地域スポーツクラブを活用することにより、スポーツを通じたコミュニティの復活が期待される。
- ・ 総合型地域スポーツクラブの育成や活動の充実は、障害者を含めた展開を期待する。
- ・ 学校部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携が重要。